

ちくちく通信

2011年秋



発行：ちくちくの会 (<http://chiku-chikunokai.jimdo.com/>)

平成 23 年 9 月現在
会員 35 名で活動しています。

14 件の医療機関さまにお洋服・
型紙を寄付しています
(7月比 会員+3名、寄付先+2件)

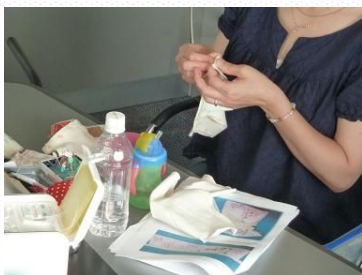
【8月のちくちくの会】

8月25日

参加は、会員さん6名とこどもさん6名。初参加の方が2名でした。



まなざし真剣！



テーブルの上は賑やか～

前回完成できなかったのが仕上がったり、
初参加の人と共同作業でやったり、家で何着か作っ
てくれたり、みんなでたくさん頑張って、10着くらい
出来上がりました！

【現場からの声】

お洋服を提供した医療機関さんからの声が届いて
います。ご紹介します。

- ★ 1枚1枚丁寧に仕上げられていて、素晴らしい
です
- ★ 温かみが伝わってきて、ぜひ赤ちゃんに着せて
あげたいと思いました
- ★ お母様、ご家族様からも「可愛いですね」と
笑顔が見られ、今後も継続してケアを提供してい
きたいです
- ★ ご家族から、「こんなに
ちいさなお洋服をありがとう
ございます」と感謝の言葉を
いただきました



現場からのお声は、作っている側にとっても、励みにな
ります。お手数とは思いますが、ぜひご意見・ご感想を
お聞かせください

天使ママからの声（第2回）

2008年10月、常位胎盤早期剥離のため緊急帝王切開。29週で第一子の娘さんとお別れしました。その後、困難を乗り越えて、2010年6月弟くんを出産。2人のこどもさんを大切に思い育てる、心優しいママです。

～私は、術後に出血が止まらず、母体の安静が必要であった為、娘と面会できた時間はごくわずかでした。娘は1170gと小さな体でしたが、私の母親が用意してくれたベビー服を着せてお別れしました。ぶかぶかだったけど、とても可愛かったです。

ちくちくの会で活動している天使ママから、活動への思いをお話いただいています★



天使ママとなってから色々な出会いがあり、「ちくちくの会」に参加させて頂いています。お洋服作りは、生地選びから。その時から、天使ちゃんの事をいろいろと考えます。「どんな柄がいいかな?」「この生地のほうがやわらかくて痛くないかな?」時には「娘に似合うかな?」と娘に重ねて選ぶ時もあります。お洋服は、天使ちゃんに着せやすいようにと考えられ、作られています。そしてお裁縫初心者でも作りやすくしてもらっているので、不器用な私でもお裁縫できます。

娘とお別れの一年後、娘が残してくれた子宮に新しい命が宿っている事がわかりました。不育症の治療を受けながらの、不安でいっぱい妊娠生活でしたが、2010年6月に無事に元気な男の子を出産しました。我が子が成長していく姿を見守ることが出来る。そのありがたさを感じる毎日です。

自分の時間を見つけることが難しいのですが、ちくちくの会に参加させて頂いて、皆さんと共にちくちくする時間は、私にとって癒しの時間でもあり、毎回楽しみに参加させて頂いています。

お腹に宿った愛おしい命が、元気な産声をあげて生まれてきてくれること。それが、一番の望みです。けれど、どうしても救う事の出来ない命があることも現実です…。突然のお別れが、悲しい気持ちだけになるのではなく、少しでもあたたかい気持ちになれるためのお手伝いを、これからもさせていただけたらと思います。



特集：ちくちくの会の活動を、大学生のみなさんや一般の方たちと考える

今年の7月、暑い暑い夏の日。

会員2名で、大学生のみなさんや一般の方たちを前に、会についてお話してきました。

きっかけは、5月。ちくちくの会の会員の出身校より、地域のボランティア活動を考える授業の一環として、会について話してほしいと依頼がありました。妊娠・出産などを身近に感じにくい年代の人たちを前に、当初は“お話して、はたしてわかってもらえるだろうか”などの心配を抱きつつ…。それでも、「知ってもらうこと」がまず大事なのは、という思いにかられ、会のなりたちや、活動の主旨、現在に至るまでの経過などをお話してきました。実際、会で用意しているお洋服やパンフレットも手にとってもらいました。

活動後、大学生のみなさんより感想を寄せていただいたので、ここでご紹介します。

今まで流産、死産というものはどこかひとごとのように感じていましたが、それではいけないと思いました。今回話を聞いて、将来自分が、また自分の周りの人がそういった経験をすることもあるのだと気づいたからです。

今回の授業では、いのちの大切さについて学んだような気がします。



ちくちくの会の素晴らしい点は、つらい思いをされた方のことを思いやり、自らが活動をしていくということだと思いました。私も何か思い立ったときにアクションを起こせるようになりたいと思いました。

私の周りには死産を経験した人などはいません。しかし、もし身近にいた場合はその人になんて声をかけていいのかわかりませんでした。安易に「がんばって」なんて言ってしまったかも……。しかし、今日の講師の方の話を聞いて、無理に何かを「言う」ことだけが必要なのではないだと分かりました。

（会の活動が経験者で成り立っていると聞き）経験のある人だからこそ寄り添える気持ちがあるのだと思いました。しかし、私には経験はありませんが、それでもこのちくちくの会の優しさというか暖かさは、すごく感じる事が出来ました。

こんな、何とも言い表しようがない悲しみを乗り越えて、前向きに活動する姿に胸を打たれました。大切な人を亡くしてしまったからこそ、他の人に同じ悲しみをしてほしいくない、同じ悲しみにあった人の支えとなる、という姿を見習いたいです

活動を、“無関係なこと”と捉えず、自分達のところまで引き寄せて考えていただいたことは、本当にありがたいです。これからも、会の活動が広く理解していただけますように、と思っています。（参加会員より）